

ふくい社会福祉

2022
9
No.456

Fukui Social Welfare

こころでつながろう! 福井

8月4日から8月5日に嶺北を中心に発生した集中豪雨。このうち大きな浸水被害を受けた勝山市・南越前町では災害ボランティアセンターを開設し、被災者からのニーズ（家屋の泥出し、清掃など）に対応するため多くのボランティアの協力による支援活動が実施されました。（特集ページに関連記事）



CONTENTS

2,3P **特集** 防災・減災へ地域の力を

4P お知らせ
◆ 10月1日から共同募金運動が始まります

5P 社協TOPICS
◆ ボランティア体験2022募集
◆ 苦情解決セミナー参加者募集

6P 報告
◆ 「まごころ基金、子ども未来支援事業」
助成団体決定！
◆ 寄付・寄贈

7P 連載「みんなdeつながろう! vol.2」
◆ 成福寺みんなの食堂（越前市）

8P 連載「社会福祉法人が取り組むSDG's」
◆ 社会福祉法人 めぐみこども園
報告
◆ 福祉ブランディングセミナー

9,10P 社協TOPICS
◆ 「保育のおしごとと職場説明会」参加者募集！
◆ 福井県社会福祉研修所 研修受講生募集！
◆ 「福井県社会福祉大会」案内
◆ 「川柳コンテスト」作品募集！



防災・減災へ地域の力を



9月は**防災月間**です。8月上旬の記録的な大雨では、東北や北陸を中心に各地で河川の氾濫や土石流が相次ぎ、本県でも勝山市や南越前町で大きな被害が発生しました。災害の発生を完全に防ぐことはできないとしても、人命を守る取り組みの歩みを止めてはなりませんし、実際に成果を上げている事例も多数報告されています。

今回は「**防災・減災へ地域の力を**」をテーマに、県内での先駆的な取り組みを取り上げ、災害への備えについて考えたいと思います。

地区防災計画 (敦賀市北地区)

東北の太平洋沿岸を中心に未曾有の被害をもたらした平成23年の東日本大震災は、公助の限界を改めて浮き彫りにしました。国は自助と地域コミュニティによる共助の重要性を強く訴え、その啓発に力を入れるようになりました。

こうした背景を踏まえ平成25年の災害対策基本法改正で、住民自らが地区の防災計画を策定し、市町村の防災計画に反映できる制度が創設されました。

た。昨年この制度に基づく県内第1号として、敦賀市北地区の住民らが地区防災計画を練り上げ、市の地域防災計画にも盛り込まれました。



防災計画策定委員会最終会合

自分たちの地区は自分たちで守る

計画の目的にも掲げられたその決意は、自助と共助だけでなく『互助』の項目を設けたことにもうかがわれます。自助は家庭および事業所、互助は区、共助は地区レベルでの取り組みを想定しています。本年度内を目標に、計画の実

効性を高めるための具体的な取り組みを定めた5カ年計画の策定も進めていますが、一人暮らしの高齢者も多いことなどから、要支援者への対応を最優先で検討しています。

計画策定を機に、これまで地域の団体などがそれぞれ単独でやっていたことを共同でやろうという機運が高まり、その母体として新たに北コミュニティ運営協議会が設けられました。その中の活性化委員会と高校生の企画で、地域の子どもたちを集めた世代間交流イベントを初開催した際に、中学生から自分たちもやりたいとの声が上がりました。河島利和協議会長は「こうした活動を継続することにより、地域防災の担い手育成にもつながっていくてほしい」と期待しています。

個別避難計画 (永平寺町)

(永平寺町)

過去の災害では、自力で避難できなかったり、言葉の壁のために情報が伝わらなかつたりしたケースが相次ぎました。こうした教訓を踏まえ、国は災害対策基本法の見直しを重ね、平成25年の改正で市町村に対し、災害時に自ら避難することが困難な高齢者や障がい者ら避難行動要支援者の名簿の作成を義務づけました。さらに令和3年の改正では、避難行動要支援者について一人一人の状況に対応した個別避難計画の作成が、市町村の努力義務とされました。

県内では永平寺町が、国のモデル事

業として令和3年度から個別避難計画の作成に取り組んでいます。災害に強いまちづくりを目指し、以前から河合永充町長が自ら集落に向いて防災講座を開催し、住民の意識を高めており、町民の42人に1人が防災士資格を取得しています。令和2年度からは地域包括連携協定を結んでいる福井大学との協働で、酒井明子福井大学名誉教授の助言を得ながら、福祉避難所の在り方や町民の災害に対する意識向上への取り組みも進めてきました。

高齢者や障がいがある人の避難支援には、家族以外の地域住民の協力が欠かせませんが、こうした下地も生かしながら関係者らへの丁寧な説明に努め、これまでに町内の対象者955人のうち28人の計画作成が完了しています。一方で、要配慮者本人や家族の同意取り付けに時間を要するケースもあり、引き続き理解促進に努めることにしています。

計画には地域の避難支援者や避難経路、避難時の持ち出し品をはじめ、対象者に応じて必要な事項を記載しており、書式自体も独自に作成しました。実際の計画作成に際しては優先順位をつけて取り組まざるを得ませんが、町防災安全課の源野陽一課長補佐によると、要介護度といった指標だけではなく、対象者と普段接している人たちの話を聴くのが一番確実とのこと、優先順位の判断にも地域の力が発揮されています。

計画は作って終わりではありません。対象者の生活環境や身体状況の

ほか、支援側の態勢が変わることも考えられます。個別避難計画を反映した避難訓練を実施するとともに年1回のペースで更新し、有事の際に有効に機能するようにしていく方針です。

個別避難計画の作成は、福井市や鯖江市などでも本格化しつつあり、それぞれモデル地区を設定して推進することになっています。



福祉避難所での生活を想定し実施された避難訓練

福井県災害派遣福祉チーム

(福井DWAAT)

令和3年度に発足した福井県災害派遣福祉チーム(福井DWAAT)は、本年度からチーム員のレベルアップに向けたミドル研修をスタートさせるなど、チーム員の養成を本格化させています。

新たなチーム員を養成するためのセミナー研修は、7月26日に開催しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で今回もオンラインとなり、県内の福祉の第一線で活躍するメンバー12人が受講しました。

受講生の一人が阪神淡路大震災で被災されていたことが分かり、急きょプログラムを一部変更して当時の体験を話していただきました。自宅が倒壊して間一髪で家族に助け出され、親族の安否を確認するために潰れた家屋の上をはって進んだことや、避難場所へ救助の手が届かず亡くなっていく犠牲者の方々を目の当たりにし、数日後には自身も意識を失って生死の境をさまよったという現実が、肉声で伝えられました。

参加者からは「被災地での活動は」今の覚悟ではできないと思った」「(そのような状況で)自分に何ができるか。何かできるよ」ように行動を見直したい」などの声が聞かれ、DWAATのメンバー、福祉の専門職として、スキルアップへの決意を新たにしていました。

このほか演習では、災害福祉支援に先進的に取り組んでいる京都DWAATのメンバーから助言を受けながら、大規模避難所におけるニーズの掘り起こしや要配慮者らに寄り添う活動の在り方などについて考えました。

ミドル研修は9月下旬に開催予定で、派遣先で連携が求められる医療分野の関係者による講演や現地での活動の流れを想定した演習のほか、参集訓練も計画しています。



勝山市・南越前町で災害ボランティアセンター開設



8月上旬の大雨で住宅の浸水被害などが多数発生した勝山市と南越前町では、5日の発災直後から県・市町、被災地社協、県社協が、被害状況の把握と災害ボランティアセンター(VC)の開設に向けて調整を進めました。

勝山市は5日、南越前町は6日に、VCを開設し運営をスタートしました。

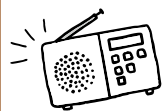
両センターには連日、多くのボランティアが訪れ、住宅に流れ込んだ泥のかき出しや使えなくなった家財道具の運び出しなどにあたりました。

特に被害が大きく災害救助法が適用された南越前町では、休日には500人を超えるボランティアが詰めかけました。VCの開設が前倒しされたこともあり、当初はボランティアの送迎をはじめ、運営面の準備が万全ではありませんでしたが、県内市町社協を中心に、さまざまな団体やグループの支援を得て、日々改善しながら運営体制を整えました。新型コロナウイルス感染防止対策にも気を配り、南越前町では県内在住者で①ワクチン3回接種済み②活動日の3日前以降のPCR検査で陰性③活動日に有効な抗原検査で陰性一のいずれかに該当する人を対象に、ボランティアを募りました。

VCには支援物資も続々と届き、香川県三豊市詫間中学校からの土のう袋には、生徒たちの手書きで「がんばれ! 福井!!」などのメッセージが添えられていました。

勝山市では11日にVCを閉鎖し、市社協の地域支え合いセンターでの個別対応に移行。延べ400人近くのボランティアが活動しました。南越前町では被害が広範囲に及んだことからVCの運営も長期化し、28日までに延べ4千人を超えるボランティアが参加されました。

29日以降は町社協内にくらし復旧支えあい窓口(復旧ボランティアセンター)を設けて被災世帯からの生活に関する相談や福祉課題に対応するとともに、土日曜日を集中活動日として9月19日までボランティアの受け入れを行いました。



土のう袋に書かれた応援メッセージ

10月1日より始まります。 **ご協力をお願いします**

福井県の目標額



一般共同募金	113,054,000円
地域歳末たすけあい	25,905,000円
NHK歳末たすけあい	8,000,000円
合 計	146,959,000円

あなたの募金で、
じぶんの町が、
こんなに良くなっています。



支援していただいた「ありがとう」を
二次元コードでご覧ください。

赤い羽根募金のつかいみち
赤い羽根データベース
はねっと

災害義援金のご協力のお願い

福井県共同募金会では、8月4日からの大雨災害で被災された方々を支援することを目的に次の義援金の募集を行っています。ご協力をお願いします。

- 義援金 / 令和4年8月大雨福井県災害義援金
- 期 間 / 令和4年10月31日(月)まで
- 銀 行 / 福井銀行学園出張所 141 普通 6033280 社会福祉法人福井県共同募金会
ゆうちょ銀行 00160-9-588671 福井県共同募金会義援金
- 窓 口 / 平日、福井県共同募金会及び県内各市町共同募金委員会の窓口でも受付を行っています
(問い合わせ先) 福井県共同募金会 ☎: 0776-22-1657 FAX: 0776-22-3093



ボランティア体験2022 体験者募集中!

福井県ボランティアセンターでは、ボランティア体験期間を7月～12月までとし、体験者を広く募集します。選べる活動・日程で、自分らしさを大切にしながらボランティアをすることができます。一日のみの体験も歓迎です。ご興味のある方は、ぜひご参加ください。



受付期間 7月1日(金)～12月9日(金)

体験期間 7月23日(土)～12月23日(金)

主な活動プログラム

- ① 福祉施設の利用者との交流、レクリエーションのお手伝い
- ② 施設行事や地域で実施されるイベントの運営協力
- ③ NPOやボランティアグループが行う活動への参加



Facebookにて
「ランティーが行く!」
公開中!!



福井県ボランティアセンター
マスコットキャラクター
「ランティー」



詳細は、左の二次元コードからご覧ください。

◀ **福井県社会福祉協議会HP**
(<https://www.f-shakyo.or.jp/>)

※新型コロナウイルス感染予防・拡大防止を優先し、無理のない範囲で行うようお願いいたします。

【問い合わせ先】 福井県ボランティアセンター

☎0776-24-2433 E-mail: volunt@f-shakyo.or.jp

URL : <https://www.f-shakyo.or.jp/>

FB : <https://www.facebook.com/fukuikenshakyo/>

～利用者の声をよりよいサービス提供につなげるために～

運営適正化委員会 苦情解決機能強化セミナー開催のご案内

福祉サービスの利用者等が抱える意見・要望を気兼ねなく伝えられること、その思いに対し、迅速かつ適切に応えられる環境や仕組みを事業所として整え、実践することは、サービスの質を高め、双方の信頼関係を強くすることにつながります。

本セミナーは、事業所に求められる苦情対応への姿勢や苦情解決のあり方等について研鑽を深め、また、利用者等からの要望に対するその適切な対応に関する知識および技術の習得を通して、福祉サービス事業所における苦情解決機能等の一層の向上を図ることを目的として開催します。

日時 令和4年11月22日(火) 13:30～15:40

開催方法 Zoomによるオンライン

講師 山下 興一郎 氏

- 淑徳大学 総合福祉学部社会福祉学科 准教授
- 全国社会福祉協議会中央福祉学院 教授



申込二次元コード

詳しくは、**福井県社会福祉協議会ホームページ**
(<https://f-shakyo.or.jp/>)をご覧ください。

◀ 左の二次元コードからお申し込みいただけます。



【問い合わせ先】 地域福祉課 経営支援グループ

☎0776-24-2347 FAX 0776-24-8942 E-mail : kujyo@f-shakyo.or.jp

令和4年度

子ども未来支援事業「子ども食堂等への助成」 および

決定

令和4年度
(第32回)

福井県まごころ基金助成事業助成団体

去る7月20日(水)、子ども未来支援事業「子ども食堂等への助成」および福井県まごころ基金助成事業の交付式が行われました。

子ども未来支援事業「子ども食堂等への助成」は、松原ふれあい基金やチャリティーアート展での収益を活用し、地域における子どもの健やかな育ちや自立を支援するため、子どもの居場所づくりに取り組む団体や児童養護施設退所者に対して助成しており、子ども食堂等の立ち上げ助成として、平成28年度から昨年度までに、計12団体に助成を行ってまいりました。今年度は、2団体に



各200,000円の助成を決定しました。

「福井県まごころ基金」助成事業は、県内篤志家からの寄付金を運用し、県内の民間福祉団体等が実施する様々な社会福祉活動等に対して支援を行うことにより県内の地域福祉を推進するもので、平成3年以来、のべ975団体に対して合計1億7千万円を超える助成を行ってまいりました。今年度は、9団体に対して合計1,448,000円の助成を決定しました。

令和4年度 子ども未来支援事業「子ども食堂への助成」助成団体

	助成団体名	活動地域
1	一般社団法人えちぜん自立サポート	越前町
2	ゆるい食堂実行委員会	越前市



令和4年度(第32回) 福井県まごころ基金助成事業助成団体

	助成区分	助成団体数	助成団体名
通常助成枠	高齢者の福祉向上を通じた取組	2団体	笛吹きクローバー
			特定非営利活動法人和が家
	障がい者(児)の福祉向上を通じた取組	3団体	一般社団法人ライフトレーニング
ハレバレ会			
NPO法人Bumps			
	地域全体の福祉向上を通じた取組	1団体	特定非営利活動法人えちぜん青少年自立援助センター
チャリティーマージン枠	子どもの貧困・貧困の連鎖をなくすための取組	1団体	100人の村人プロジェクト
	ひきこもり・8050問題への理解促進と支援の輪づくり	2団体	はじめの一步 NPO法人なかまっち

寄付 寄贈

♥8月30日

寄贈者 JAM北陸 様
●車いす 1台

寄贈先 福井県社会福祉協議会



心温まる寄付・寄贈に
心から感謝申し上げます。
皆様の善意は有効に
活用させていただきます。



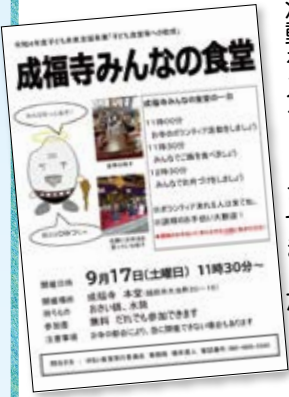
みんなdeつながろう!

このコーナーでは、県内の福祉活動に取り組みされる皆様をご紹介します。

Vol.2

「ゆるい食堂実行委員会」

第2回は、越前市で活動中の「成福寺みんなの食堂」は、今年度「子ども未来支援事業」の助成を受け(本誌6頁掲載)、4月から活動をスタートさせました。



Q 皆さんの活動を教えてください。

A 毎月1回、越前市にある成福寺というお寺を使わせていただいで、みんなの食堂を実施しています。参加は、近所に住む子どもたちからお年寄りまで、幅広い世代の方たちです。

Q 活動をはじめようとしたきっかけを教えてください。

A 私たち、ゆるい食堂実行委員会は、子どもの貧困、孤食、フードロスの社会問題を何かの形で解決できないかと、2016年から鯖江市で子ども食堂をはじめました。ただこのコロナ禍で2年以上活動を休止している状態でした。

そのような中、開設当時小学2年生で現在中学2年生の新代表が「ゆるい食堂の場の雰囲気が好きで、自分が住んでいる地域でも実施したい」と2022年4月にスタートしました。



Q 活動を通して感じられたことは?

A 最初、警戒されていた住民の方も一度参加すると満足して帰られます。それは、これまで顔は見たことあるけど、話したことはなかったが、この場をきっかけにコミュニケーションがとれ安心したからだと思います。

昔ながらの地域で住民同士の関係性が強いかわかと思われがちですが、実際には、なんとなく顔を見たことがある程度のつながりでした。このことから、改めてご近所同士のコミュニケーションを求めていることがわかりました。



Q これからの活動目標を教えてください。

A まずは継続していくこと。そのことで、地域にも認知され定着していくと思います。そして、地域に住むいろんな方があたりまえに集まれる場所、すなわち地域の方々の居場所のひとつになることが目標です。ご近所同士の関係性が希薄になりつつある今日、それが見直され、災害時の自助共助、地域が住民を見守るという関係性ができて、安心して暮らせるまちにしたいと思っています。

Q 今後の予定を教えてください。

A 月1回お寺の行事である「ボランティアの日」と併せて実施しているので、参加者にはボランティア活動に協力いただいています。もちろんボランティアをしなくても食事だけの参加も可能です。ご近所さん以外の方も参加しているので、興味ある方、居場所を求めている方は遠慮なくご参加ください。



あしがき

地域の皆さんの居場所を目指している「成福寺みんなの食堂」。この活動が住民同士の助け合いにつながり、よりよい地域になることを期待しています。



社会福祉法人が 取り組むSDGs

連載
02

めぐみこども園 × SDGs

【取材協力】社会福祉法人 めぐみこども園／めぐみこども園 園長 中戸 華恵氏

社会福祉法人 めぐみこども園（以下、めぐみこども園）は、保育事業を行う県内の社会福祉法人の第一号として「ふくいSDGsパートナー」に登録しました。

今回は、未来を担う子ども達、保育者、保護者等が一体となって進めているSDGsの取り組みについてご紹介します。



“廃材遊び”や“^{もくいく}木育”を通して

年長児の廃材遊びがきっかけとなり、子ども達がペットボトルキャップのエコマーカー等に興味を持ち、積極的に絵本やタブレットでSDGsについて調べる姿が見られるようになりました。

子ども達は、子ども同士のやりとりの中で発見し学んだことを家に帰って保護者に伝え、親子のコミュニケーションを通して、子ども主体の遊びや学びを深めています。

また、平成27年度から^{もくいく}“木育”を取り入れ、県産無垢材を生かした木育ルームや木製の遊具等を揃えるだけでなく、年齢に応じて自分が使う木製の箸やスプーンを作っています。木製の遊具やカトラリーは、壊れたり傷んだりしても、削ったりオイルを塗ったりしてお手入れをすることで、長く使うことができます。自分で作り、直したカトラリーに愛着を持ち、“物を大切にしようとする心”が自然に育まれるようになりました。

めぐみこども園におけるSDGsは、「環境」と「生命の尊厳」がキーワードとなっています。たくさんの自然や命、人と接する機会のなかで子どもたちが育ち、自分の周りの人に小さな優しさや思いやりをもって接することができるようになることを心がけています。

絵本約5,000冊をそろえて

今年6月に園内に「めぐみこども園ライブラリー」をオープンしました。

現在は園児や保護者のみが利用可能ですが、今後は感染症の状況などを考慮しながら、地域や子育て世代の方々にも開放していく予定です。



めぐみこども園が取り組むSDGs

- 子どもたちの主体的な学びを支援します。
- 若手職員のキャリアアップを応援します。
- 幼児、職員への外部専門講師交えた教育、指導の実施をします。

福祉ブランディングセミナー

～「地域共生社会カードゲーム」で考える「支え合いが持続する地域づくり」とは？～

本セミナーは、SDGsを追い風にした地域共生社会の推進の中、社会福祉法人が「支え合いが持続する地域づくり」にどう貢献していくべきかを学んでいただくことを目的に去る7月8日（金）に福井県社会福祉センターで開催。

参加者は、株式会社プロジェクトデザイン（富山県）が考案した「地域共生社会カードゲーム」を体験。お互いに協力しあい、仮想社会での地域共生社会の実現を目指しました。



参加者の声

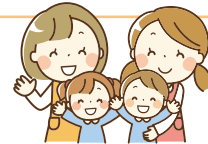
- 周囲への思いやりと協力する気持ちが地域共生社会やSDGsに繋がるので、まずは職場内から考えていきたい。
- 「共生社会」がテーマとあって、SDGsへの理解とどうつながるかと思っていたが、最後は福祉におけるSDGsを落とし込めて良かった。

令和4年度 保育のおしごと 職場説明・面談会のご案内

保育人材センターでは、保育関係の職場への就職希望者と保育所等の求人担当者が直接面談し、保育の魅力や採用の情報等がきける「保育のおしごと職場説明・面談会」を開催します。

保育のおしごとに関心がある方、保育の仕事に興味はあるけど、まずは仕事の内容などを知りたい方など、保育の仕事に興味のある方ならどなたでも、参加自由（無料）です。皆様のご来場をお待ちしております。

日時	令和4年10月16日(日) 13:20~15:30(受付13:00~)
会場・内容	福井県自治会館 多目的ホール、202・203研修室 (福井市西開発4-202-1) <ul style="list-style-type: none"> ● 13:20~14:00 先輩保育者との交流会 ● 14:00~15:30 職場説明・面談会



参加予定事業所 福井県内の保育所等 30事業所

その他

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、次の事項に留意して開催します。
【3密（密閉・密集・密接）防止、マスク着用、手指消毒、検温、換気】
- ・今後、新型コロナウイルス感染拡大の状況により、延期・中止する場合があります。



【問い合わせ先】 福井県保育人材センター ☎0776-28-3180

福井県社会福祉研修所 研修開催案内

現在募集中の研修です。多くの方の申し込みをお待ちしています！



研修名	開催日	開催要項 二次元コード	申込締切
福祉職員キャリアパス対応課程生涯研修 初任者コース(福井会場)	10/27・10/31・11/29 1・2日目はオンライン、 3日目は集合で開催予定		10/4
保育士スキルアップ 主任保育士研修【後期】	11/2・12/19・1/26 (オンライン研修)		10/12
保育所等実習指導者研修	11/9 (オンライン研修)		10/19
マニュアル作成・活用研修	11/30 (オンライン研修)		11/4

各研修の開催要項は、上の二次元コードからご確認ください。
 最新の研修募集情報は、福井県社協ホームページ(<https://f-shakyo.or.jp/>)にて随時更新中です。

ご存じですか？ 令和4年度の研修から「**研修受講サポートシステム**」を導入しています。

- 研修開催要項に『「研修受講サポートシステム」よりお申し込みください』とある研修が対象です。
- 事業所IDとパスワードでログインいただくと「申し込み」・「申し込み内容の変更」・「申し込みの取消し」が可能です。

第69回福井県社会福祉大会開催のお知らせ

日時	令和4年10月22日(土) 13:30~16:00
会場	福井県生活学習館(ユー・アイふくい)
内容(予定)	①表彰式(13:30~) ●福井県社会福祉協議会会長表彰 ●福井県共同募金会会長表彰 ②記念講演(14:40~)

記念講演



テーマ 「ふつうの人ってどんな人? ~発達障害と“個性”~」

講師 小島 慶子氏 [タレント/エッセイスト/東京大学大学院情報学環客員研究員]

《講師プロフィール》

学習院大学を卒業後、TBS入社、アナウンサーとしてテレビ、ラジオに出演する。2010年退社後は各種メディア出演のほか、執筆・講演活動を精力的に行っている。現在文化放送「大竹まこと ゴールデンラジオ」でレギュラーも務めている。

10~20代で摂食障害、30代で不安障害を経験し、40歳過ぎてから発達障害の一つである軽度のADHDと診断されたことを公表。自身の経験を通じて、発達障害に対する偏見をなくし、違いを尊ぶ世の中にしようとエッセイやテレビでも発信している。

被表彰者以外の方、一般の方の参加や記念講演のみの参加も可能です。参加をご希望の場合は、**10月7日(金)までに**下記へお問合せください。(申込状況により参加調整の場合あり)

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により開催形式が変更になる場合もあります。

【問合せ・申込先】 総務企画課 社会福祉大会担当
☎0776-24-2339 FAX 0776-24-8941 E-mail somu@f-shakyo.or.jp

ラジオ講座 いきいきライフ

川柳コンテスト 作品募集

ラジオ講座「いきいきライフ」では「いきいき」をテーマとした川柳を募集します。

応募条件

作品は未発表のもので、一人二句まで応募できます。

応募締切：11月30日(水)

- 応募作品の中から優秀作品を五句を選び、2月19日(日)放送のラジオ講座「いきいきライフ」で発表します。
- 作品が選ばれた方は、3月に開催する「いきいきライフ」の公開講座にご招待します。併せて表彰を行い、1,000円の図書カードを進呈します。

応募方法

- 郵送、FAX、メールのいずれかで応募してください。
- 応募される方の氏名(ふりがな)、住所、電話番号、年齢を記載してください。

応募・問い合わせ先

地域福祉課「川柳コンテスト」係
〒910-8516 福井市光陽2丁目3-22
TEL 0776-24-2433 FAX 0776-24-0041
E-mail : sukoyaka@f-shakyo.or.jp



ラジオ講座
「いきいきライフ」
とは…

ラジオやインターネットを通じて、各界でご活躍の方々から、さまざまお話を年間50回以上聞くことができる講座で、内容は時事、社会、文化、娯楽、健康、医療、福祉などです。FBCラジオ(嶺北864kHz/FM94.6MHz 嶺南1557kHz/FM93.6MHz)で、毎週日曜日6:30~7:00、毎週土曜日17:15~17:45に再放送しています。